

2014年7月24日

三重県教育委員会

委員長 岩崎恭典 様

教育長 山口千代己 様

日本共産党三重県委員会

委員長 大嶽 隆司

前県議 萩原 量吉

前県議 真弓 俊郎

四日市市県政対策委員長・四日市

市議会議員 山本 りか

津市県政対策委員長・元津市議会

議員 岡野 恵美

## 自衛隊の高校生に対する行きすぎた募集・勧誘について

### 県教育委員会に対する申し入れと公開質問状

去る7月2日朝、中勢、南勢の高校を中心に、校門前に多くの自衛隊関係者らが、「みなさんの自衛隊」のパンフレットを直接生徒に手渡し、生徒を引き止めたり、歩きながら強引な勧誘を続けました。中には迷彩色の制服をきて勧誘していたところや、生徒とともに校庭の中にまで入って勧誘している学校もあったそうです。

さらに、このような勧誘は事前に学校や先生方にも連絡がなく、学校の朝の打ち合わせの中でも、大きな問題になったそうです。

その上、今回、生徒らへの勧誘のパンフレットの発行元が「自衛隊三重地方協力本部」のその上に、「三重県・三重県教育委員会」の名前が書かれており、左には三重県の記章と右には防衛省の記章まで印刷されているではありませんか。こんなことを、いつ、どこで、誰が決めたのでしょうか。

学校関係者はもとより、高校生の保護者や生徒自身にも大きな不安が広がっています。

時あたかも、「集団的自衛権の行使」を国会の審議や、国民の声を全く無視して、安倍自公政権の閣議だけで強引に決定しました。まさに、その時だからこそ、いっそう、この問題は深刻だと思います。

集団的自衛権の行使容認は、憲法を破壊し、「海外で戦争をする国」作りをめざす、歴史的な暴挙というべきです。

自公政権の「閣議決定」は、戦後の日本の国のあり方を否定し、「日本を殺し、殺される」国にしようというもので、それは日本の国を守るものでも、国民の生命を守るものではありません。まさに、これまでの自衛隊の性格や行動そのものを大きく変え、アメリカと一体に他国の人々に銃口を向けることを強要するものに他なりません。

こんな危険な方向に学校教育の下で自衛隊への勧誘が許されることは絶対にあってはなりません。かつて日本の侵略戦争は「教室から準備された」と言われています。

そこで下記について申し入れ、また質問致しますので、すみやかに文書で、ご回答ください。よろしくお願いいたします。

## 記

1、今回の自衛隊の高校門前・校庭の中での勧誘は、いつ、誰が、どんな指示の下で行なわれたのか？明らかにしてください。

また、学校現場で、どのような対応がなされたのか、明らかにして下さい。

2、今回の自衛隊募集のパンフレットに、三重県教育委員会の名前で印刷されたのは、どんな経緯で決られたのでしょうか。県教育委員会として議論されたのでしょうか、お答え下さい。

3、昨年5月23日付の防衛大臣の各都道府県知事への、「自衛官募集等の推進について（依頼）、防人育第7044号」の依頼文書には、「学校教育と隊員募集の調和を図るための教育委員会及び学校等関係機関との募集に関する調整・連携」という文書がありますが、これに基づいて、どのような具体的な論議と対応がなされたのでしょうか。

このような防衛大臣の依頼に対して、独立した県教育委員会がどんな協力をしようとしたのでしょうか。

このことについては文部科学大臣は何かの指示なり、依頼なりがあったのでしょうか？

4、高校3年生の生徒らに、このパンフレットがいっせいに郵送されてきています。

これは住民基本台帳が閲覧されていると思われませんが、これは個人情報の保護と相矛盾するものです。この点での見解はいかがでしょうか？

自衛隊に入隊する気持が全くない子らにまで、このような案内、募集、勧誘が国民の税金で大量郵送されたことは全く許されるべきではありません。子どもたちの進路を考える上でも、大きな問題と言わなければなりません。

5、最後に、集団的自衛権の行使容認の閣議決定について、過去の日本の侵略戦争の歴史的教訓を学ぶ立場からも、独立した教育委員会がこの自衛隊の募集や勧誘にいっさい手を貸すことがあってはなりません。率直なご見解をお聞かせ下さい。

以上